



り日焼けしてしまった。思い出すと2年前はこの辺は1~2メートルもあるデブリの塊で沢はほぼ埋まっていた。端の方を登って行った記憶がある。そのうちにだんだんと日が高くなって雪が溶けて来て、傾斜のキツイ所はシールが滑り易くなって来た。スキー板に掛ける荷重方向を気にしながら滑らないようにジグザグに登って行く。リーダー平本さんは快調に飛ばして先行者を次々と追い抜いて行く。新井も何とかそれに付いて行く。幸いにも4月に何本か山スキーに行けたのでシール登高にも少しは慣れてきていたので良かった。とにかく天気が良く歩いていると暑い。止まると涼しいくらいの快適な気温だ。マヤクボ沢出会で一息入れる。2パーティほど休んでいる。ずーっと先とずーっと下にすごく小さく他のパーティの歩いているのが見える。



小休止してひたすら登る。ますます傾斜も増し、雪も溶けてきて滑り易くなって来た。

11時40分頃マヤクボ沢2500M付近にある台地で休憩。やはり2パーティほど休んでいる。2年前はここで時間切れ(新井は電池切れ)。ここから少し行くと見上げるほどの急傾斜になる。平本さんに聞くとそれでも35度くらいらしい。



ほとんどの先行者はここからスキーを担いでアイゼンかブーツで登って行く。新井はスキーをザックにくくり付けてブーツで登る。先行者のトレースの足型がバッチリ付いていてまるで階段を登るように登れるが、とにかく急なので数メートル登るごとに一旦止まって息を整えながら登る。平本さんは稜線直下までシール登高で行った。さすがである。後日山レコを見たら、当日会った女子2人パーティの記録に、稜線までスキーを履いて登っているすごい人がいた、と書いてあったが多分平本さんのことだろう。平本さんが教えてくれたがそういう急傾斜の場合はストックではなくピッケルを使って登るそうである。

12時30分、稜線の左肩のコルに到着。ピークからわずかに南東のあたり。少し雲は流れているが晴れて眺めは良い。稜線上でも風は少ししかない。ピークは近くに見えるが斜面がやせていて先行者が危なげにスキーで滑って来るのを見て行くのは止めにした。ここで大休止。

13時、滑走スタート!ほとんど壁に見えるのでビビる新井(こんばんみー)。怖いので

ずーっと横方向に滑るが思い切ってターンしてみると雪質がいいのでターンしやすいので怖くない。平本さんはおニューのガンダムスキーでビュンビュンと調子良く滑ってるなあ、と見ていたら飛ばしすぎたか大コケ。スキー板が片方外れて板だけが滑って行っちゃうよー。結構下まで流れて何とか止まったが、そこからが大変。片足スキーで滑るが当然転んでしまう。何度も何度も転びながらやっと流れた板にたどり着いたのだった。やっぱり流れ止めの紐付けないとダメだね、と平本さん。かなりの体当たりギャグになりました。

マヤクボ沢出合くらいからデブリの溶けた跡がデコボコで滑りにくくなってきた。帰りは堰堤を渡ろうかと思ったが、あまり堰堤方向にはトレースが無いのもう少し右岸を滑る。中州方向へのトレースを見付けてその通りに進み、板を脱いで飛び石伝いに何とか沢を渡って舗装路へ。赤いユンボのある少し下あたりに出た。

14時30分、無料P着。自販機でコーラを買って平本さんと乾杯！リベンジ達成！サンキューてるよっ！でした。